

2020（令和2）年度 第2回 伊賀市環境審議会 議事録

開催日時：2021（令和3）年3月23日（火） 午後1時30分～午後3時20分

開催会場：伊賀市役所 2階 会議室 201

出席者：上出副会長、森西委員、西村委員、東委員、澤野委員（団体被推薦委員）

寺島会長、塚脇委員（学識経験委員）

田中部長、西尾課長、水瀧所長、山本、山本（事務局）

（三重県環境保全事業団 三村課長）

欠席委員：福田委員

議事事項：1. あいさつ

2. 議事録署名委員の指名

3. 環境基本計画について

4. 伊賀市役所地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について

5. その他

議事内容：以下のとおり

（開会 13：30）

【1. あいさつ】

〈田中部長あいさつ〉

本日は公私ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

平素は市政全般にわたり、また環境行政には特にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、今月各戸回覧されました、伊賀市環境保全市民会議の広報紙「しぜん」の表紙に、三重大学の立花先生へのインタビュー記事があり、地球温暖化を防ぐのにあたり、新型コロナからの復興において「グリーンリカバリー」が大切であるとのお話がありました。新型コロナが収束した時、以前と同じような状態に戻すのではなく、復興を、「持続可能な開発目標（SDGs）」が目指す社会につなげようとする考え方で、伊賀市環境基本計画の策定にあたっても、重要なキーワードの一つになってくるかと思います。

本日は、昨年8月に諮問いたしました、伊賀市環境基本計画について、市民と事業所を対象に実施しましたアンケートがまとまりましたので、その結果を報告させていただくことを中心に、ご審議願います。また、市の業務から排出される二酸化炭素などの温室効果ガスを削減するための計画であります「伊賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しましたので、概要を報告させていただきます。

今月の市議会において、環境基本計画策定に係る新年度予算も可決されました。皆さんの知見を賜りながら、伊賀市の環境行政の指針となる計画としてまいりたいと考えています。何卒よろしくお願いいたします。

最後に、三重県内や市内のコロナウイルスの感染者数が落ち着いてきていますが、ゼロリスクになるまでは、今一度、気を引き締めていただき、また、日頃のご健康にもお気をつけいただきますよう、よろしくお願いします。

【２．議事録署名委員の指名】

事務局から今回の議事録署名委員として、西村委員、塚脇委員にお願いし、了承を得た。

【３．環境基本計画について】

〈寺島会長〉

それでは事項３の伊賀市環境基本計画の審議に移ります。まず、市民意識調査の結果について説明願います。

〈事務局〉

前回の審議会で、市民意識調査の設問についてご協議いただき、資料２－３の内容で市民１，８００件、事業所２００件に郵送し、実施しました。返送されましたのは、市民アンケートが８１３件で約４５％、事業所アンケートが１１０件で約５５％でした。集計結果概要につきましては、受託者の三重県環境保全事業団から説明いたします。

〈三重県環境保全事業団〉

アンケート調査の結果概要につきましては資料１を、アンケートの集計結果につきましては、市民編が資料２－１、事業所編が資料２－２をご覧くださいながらお聞きねがいます。

調査の目的は、今後伊賀市が策定いたします環境基本計画に、市民等の環境に対する意見等を反映させるためであり、調査対象は、無作為抽出で、一般市民１，８００名、事業所２００社を選出しました。調査につきましては、昨年１１月上旬に、郵送で調査表を配布し、１２月末までに返送されたもので行いました。回収率は一般市民が約４５％、事業所が５５％、全体で約４６％になっています。調査項目としましては、環境に関する関心度、環境の情報について、環境の現状に対する評価、望ましい環境像、環境保全に対する取り組みです。

それでは、一般市民編から結果概要について報告します。まず、環境に対する関心度については、「関心がある」と「ときどき考えてみる」を合わせると約９０％あり、環境に対する関心が高いことが示されましたが、一方で、家庭や職場で環境について話し合いをすることが「よくある」と「ときどきある」を合わせて、約６０％になっており前回調査の８０％から下がっていたため、若干そのような機会が減っているような結果になっています。また、前回策定しました「伊賀市環境基本計画」について、「知らない」という回答が５６％あり、計画についての市民への周知が不足していたことが伺えます。

環境の情報については、情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」及び「新聞」が圧倒的に多く、それに次いで「行政による広報・回覧版」、「インターネット」の順になってい

ます。「インターネット」につきましては、前回の３％から今回１３％と、少しずつ増えていることが伺えます。情報の入手状況につきましては、「十分得ている」、「ある程度得ている」の合計が約３９％で、前回調査の約５９％から減少しており、十分な情報を得られていないことが伺えます。また、不足している情報の内容につきましては、「生活に及ぼす影響」、「環境保全のための対策」、「環境問題の現状」の順になっています。

環境の現状に対する評価については、「公園や広場などまちの緑の豊かさ」、「空気やにおいのさわやかさ」等については「満足している」等が比較的多く見られましたが、その反面「まちの清潔さ」、「川やため池の水のきれいさ」、「街並みの景色の美しさ」については、「不満」等の回答が多く見られました。環境の変化については、１０年くらい前と比較して「とくに変化なし」の回答が多数を占めました。環境面で困っていることについては、「地球温暖化」、「道路わきのごみや空き缶」、「里山の荒廃、林地開発等による獣害」などの回答が多くありました。また、今回の調査では、地球温暖化について、どのように感じているかという項目を新設しました。その結果、「気温上昇、猛暑日の増加」、「台風の大型化、ゲリラ豪雨・洪水の発生」という回答が約５５％あり、地球温暖化によると思われる気象現象を身近な問題として捉えていることが伺えました。

望ましい環境像としては、「空気のさわやかさ」、「川やため池の水のきれいさ」、「自然の森の緑の豊かさ」などの回答が上位を占めていました。地域の発展、活性化の取り組みとしましては、「交通網の整備」、「商業施設の整備」、「教育施設や情報交換の場の整備」などが上位を占めていました。なお「商業施設の整備」につきましては、前回結果の９％から、１５％に上昇していました。環境を守ることと暮らしの便利さのどちらを優先すべきかという質問では、「どちらとも言えない」が最も多く、その次に「生活の便利さは多少あきらめても環境保全に努めるべき」が続く結果でした。さらに、市のイメージとしてふさわしいと思うものは、「福祉施設や医療施設、防災施設の充実により安心して暮らせるまち」、「山や川などの自然に恵まれた静かなまち」、「企業誘致や産業振興により、働く場所・機会のある活気あるまち」が上位を占め、「医療や福祉が充実し、自然が豊かで、働く企業も多くあり活気ある街のイメージ」がふさわしいと考えられています。

今後の環境保全に対する取り組みについては、「一般ごみ・し尿処理、産廃などの廃棄物処理」、「水質汚濁や地下水汚染など水環境の保全」などが上位を占め、前回の調査と同じような傾向でした。地域の環境保全活動については、約６５％の方が何らかの活動に参加したことが伺われる結果でした。今後行いたい環境保全活動については、「ごみの減量化やリサイクルの推進などくらしの中での工夫や努力」、「市民活動や行事に参加」、「市民向けの環境指導への参加」が上位を占め、行政に対して、環境指導を求める要望があることが分かりました。

続きまして、事業所編についての結果概要を報告します。環境問題についての関心度は、１社、約１％が関心が無いとの回答であったのみであり、非常に高い関心度である

ことが伺われました。特に関心が高いものとしては、「ごみ減量化、リサイクルなどの問題」、「地球温暖化、酸性雨などの地球環境問題」、「工場からの産業廃棄物の排出及びその処理施設の問題」などが上位を占めており、これらの項目については前回も上位を占めていました。伊賀市環境基本計画については約58%が何らかの形で知っているとの回答であり、一般市民ほどではありませんが、周知が少し不足していることが伺えました。

環境の情報については、情報の入手源は、「テレビ・ラジオ」、「インターネット」、「新聞」が多くなっており、情報量としては、「十分得ている」、「ある程度えている」の合計で59%になっており、前回調査の75%より減少しています。不足している情報は、「環境問題の現状」、「環境問題の原因」、「生活に及ぼす影響」、「環境保全のための対策」が主であり、前回調査も同様の傾向が見られました。

望ましい環境像としては、「道路等の交通網の整備」、「商業施設の整備」、「観光・レクリエーション地の整備」、「企業等の誘致」が上位を占めていました。環境を守ることと暮らしの便利さとどちらかを選択するかについては「どちらともいえない」が約52%で、「生活の便利さを多少あきらめても環境保全に努めるべき」が次に続く結果でした。また、環境を守るために費用の一部を負担することについては、「どちらともいえない」が約41%で、次いで「必要な費用等を上乗せすることはやむを得ない」という結果になりました。なお今回の資料には添付していませんが、業種別にクロス集計したもので、サービス業を見ますと、「必要な費用を上乗せすべきではない」との回答が高い割合でした。

環境保全に対する取り組みについては、前回調査では「ごみ処理やし尿処理、産廃などの廃棄物処理」が一番多かったのですが、今回調査では「里山や水辺などの身近な自然環境の保全」、「森や林などの自然環境の保全」が多くなる結果でした。事業所における環境保全の取り組みは、「電気や水の節約」、「廃棄物の発生抑制」が主に図られていることが伺えました。今後の環境保全活動については、約70%が何らかの形で推進したいと考えており、その理由としては、「環境に対する関心の高まり」、「企業のイメージアップ」、「経費の節約のため」などが主なものでした。今後行いたい活動としては、「市民活動や行事への参加」、「地域住民への環境保全に対する啓蒙活動」、「環境保全に関する技術提供」などが多くなっています。また、環境保全のために取り組むべき機関として、行政に期待するところが多きいことが伺えましたが、「市民一人一人」という回答も多くあり、市民と行政が連携し、協力して取り組んでいく必要があることも伺えました。

〈寺島会長〉

概要報告ありがとうございました。それでは、質疑に入りたいと思います。何かご質問ございますか。無いようでしたら、まず、私から最初に質問いたします。事業所向けのアンケートで、1社だけ環境問題に関心が無いという回答でしたが、何か特徴的な記載はありましたか。

〈三重県環境保全事業団〉

アンケートの回答内容としては、特に変わった点は無かったです。

〈寺島会長〉

ありがとうございます。承知しました。その他にご意見等ございますか。

〈上出副会長〉

環境の現状に対する評価で、10年くらい前と比べて変化なしという回答が多数を占めていたようですが、これは、環境が保全されている状況が続いているのか、それとも環境保全に関する施策が進んでいないのか、どちらにもとれるように思います。少し厳しいようですが、私の考えとしては、水のきれいさやまちの清潔さに不満があるという回答が多いようですので、環境保全に関する施策が滞っているのではないかと考えています。この点について、事務局はどのようにお考えですか。

〈西尾課長〉

人によって感じ方も違うと思いますが、実際に変化しているような状況であっても、日々同じ場所で生活していると、その変化に気づきにくいこともありますので、変化なしという回答が多くなったのではないかと思います。ただ、前回の環境基本計画から今回策定する環境基本計画まで、途中途切れているような時期もありますので、関連する施策を続けてこれなかった部分もあるように思います。今回策定する計画には、審議会での皆さまのご意見を参考にして、その部分を反映させていきたいと考えています。

〈寺島会長〉

ゆっくりとした変化は、同じ場所で生活していると、慣れがあり、気がつきにくいものです。ただ、しばらくその場所を離れていて、久しぶりにその場所を訪れると、変化を感じることもあると思います。次のステップで、意識と現実の部分で乖離を埋めるようなことにも取り組んでもらえればと思います。

〈上出副会長〉

アンケートではいろいろな取り組みをあげてもらっていますが、実際にあれもこれもというふうに、全ての取り組みをするのは難しいと思います。特に最近では、人力的にも財政的にも厳しいと思います。最初の3年は、この事業を中心にして取り組むというように、まずは優先的な課題を決めたほうがよいと思います。

〈寺島会長〉

優先課題を決めるというような絞り込みは大切だと思います。

〈塚脇委員〉

このアンケートについて、私の感想を3点ほど述べさせていただきます。まず、1点目は、身近な環境について、約90%の方が関心があるという結果でしたが、家族や職場で、そのことについて話し合う方は約60%と、前回の約80%を下回っている結果になっていました。これは、家族構成が変わり一人暮らしが増えたこと、職場も人員削減等でゆとりが無くなってきていることが影響しているのかなと思います。2点目は、望ましい環境像のところで、「商業施設の整備」という回答が、前回の9%から15%に増えているということについて、中心市街地にあった店舗が無くなり、自動車で行ける

郊外に大型店舗が移っていつていることを不便だと感じている人が増えているのではないかと思います。３点目は、環境保全に対する取り組みです。地域の環境保全活動には約６５％の方が参加しているとのこと。私の住んでいる、いがまちでは、以前から一年に一度、「いがまち環境美化の日」が決められており、その日はみんなが身近な場所のごみ拾いをします。このような回答をされた方も多いのではないかと思います。できれば、行政でこのような日を設定したりすれば、もっと市民活動が推進できると思います。

〈西尾課長〉

塚脇委員がおっしゃられたように、一人暮らしが増えたり、職場で人員削減が進み、余裕が無くなったということが、話し合う機会が減ったことにも関係しているように思います。また、街中にお店が減ってきており、不便であるという声も聞いています。

〈寺島会長〉

環境問題に関する話題が減っていることについては、アンケート調査をした時期が、コロナの話題一色であったので、そのことも影響しているのではないかと思います。また、街中からお店が減っているという問題は、環境というよりは、都市計画的な検討も必用だと思います。このことは、地方都市の永遠の課題だと思います。

〈澤野委員〉

私もこのアンケート結果について、一言感想を言わせて下さい。環境の現状評価のところで、「公園や広場などまちの緑の豊かさ」には満足している人が多いが、「まちの清潔さ」や「水のきれいさ」には不満がある人が多いとのこと、若干矛盾しているような感じがありました。また、困っていることで、「道路わきのごみや空き缶」があがっていますが、私の地域は特にそういうふうになることがあります。近くに名阪国道があり、そのインターチェンジ付近はいろんなごみが落ちていて、ものすごく汚いです。孫の通う小学校の先生で、奈良県から来る先生がおり、いろんなところに見てますよというような看板が立っており、その付近はきれいになっているという話をしました。名阪国道はいろいろな地域の方が利用していて、インターチェンジは玄関口に当たると思います。伊賀市がきたないと思われたいような方策をお願いしたいと思えます。

〈西尾課長〉

名阪国道のインターチェンジ付近では、ごみ拾いをしたいという方もいらしますが、安全面を優先するために、道路管理者に断られるという話も聞きます。ただ、インターチェンジによっては、トラック等が停車できないよう、ラバーポールを設置した結果、ポイ捨てごみはかなり減り、きれいになったところもみられます。関係機関と連携した取り組みが進められるよう、次の計画策定時には検討したいと思います。

〈寺島会長〉

アンケートの結果と、出席されている委員の方々が感じられている現状とは、若干違うような点もあるようです。人によってポジティブに受け取ったり、ネガティブに受け取ったりということもありますし、以前との変化の感じかたも違うようです。このようなアンケート結果に出ているような意識の部分と現実の違いの差があるようですが、こ

のようなことは場所によっても違いがあったりするのでしょうか。

〈環境保全事業団〉

今回の資料にはつけていませんが、クロス集計を年齢別や職種別等で行っています。ただ、地域別（旧市町村別）には集計を行っていません。ただ、1, 800件郵送した内、旧上野市と旧島ヶ原村が1, 200件でしたので、この地域の方の意見の割合が多いように思います。

〈寺島会長〉

私の感想としましては、このアンケート結果は、現実と比べると、若干乖離している結果になっているのではないかなと思います。今回は、終わってしまいましたので、これで良いと思いますが、今後の参考に一つ話をします。名古屋大学の先生で、アンケート調査に不満率というものをういている方がいます。これは、一つの項目に「はい」という回答をする人は、その後も同じような回答をし、それぞれの回答のつながりを見ることで、原因を特定することができるのというものです。例えば、名古屋と東京で不満の原因について聞いたところ、名古屋は、多くの方が路上駐車ということになったのですが、東京都は、避難場所がわかりづらい等、さまざまでした。ただ、それを不満率というものをういて調査すると、結局は住宅が密集しているということに起因しているということがわかったそうです。参考に確認しておいてもらえればと思います。

その他委員さんからご意見はありますか。

〈上出副会長〉

また、道路脇のごみの話に戻りますが、コンビニのビニール袋に何もかも一緒に入れて捨ててあるのを良く見かけます。これは、ごみを捨てても、また誰かが拾ってくれるという考えがあると思います。ごみ拾いをしている人は、むやみにごみを捨てたりしません。伊賀市ごみゼロの日設定するとか、「ごみゼロ」や「不法投棄すると幸せが飛んでいきますよ」という言葉を看板にし、他の地域の方にもアピールするとかして、意識改革をする必要があると思います。それから、環境基本条例や環境基本計画というのは堅苦しいと思います。この題では回覧しても誰も見ないと思います。中身をピックアップし、やさしいことばにしたものも検討してほしいと思います。

〈寺島会長〉

ありがたいご意見ありがとうございます。せっかく良いものを作っても、中身を読んでもらえなければ意味がありません。確実な啓蒙活動ができるようなものを作ってもらえればと思いますので、事務局の方、よろしくお願いします。そのほかに何かありませんか。

〈森西委員〉

私は、都市計画の関係の委員もしています。そこでの話で、2030年には、伊賀市の人口が7万人を切るようです。このような人口が減っていく原因としては、一番のまち中に下水道が出来ていないことがあると思います。環境と都市計画とが連携して、この対策を進めていただきたいと思います。

〈寺島会長〉

いろいろと活発なご協議ありがとうございました。アンケート調査の結果では出てこない部分もあるようですので、アンケートだけを鵜のみにするようなことのないようにして下さい。それでは話を次に進めたいと思いますので、事務局の方、よろしくお願いします。

〈西尾課長〉

先ほどの部長のあいさつにありましたように、来年度の環境基本計画策定予算が今月の議会で可決され、4月になりましたら早速発注したいと考えています。今年度のアンケート結果、ただいまいただきましたご意見等を元に、計画策定を行う予定です。つきましては、発注時の仕様の概要について、参考に、皆さまに報告いたします。

業務名称は伊賀市環境基本計画策定業務（その2）、委託期間は令和4年3月31日までです。業務内容としましては、既存資料調査、基本方針の設定、策定の検討、推進の方法、素案、計画書、ホームページ等の広報資料の作成等になっており、審議会での審議等経て、最終、議会の議決を経て、完成した成果品（本冊及び概要版）を納品してもらいます。ご意見等お聞かせいただきたいと思いますので、宜しくお願いします。

〈東委員〉

先ほどアンケート結果の時に話をさせてもらったほうが良かったのかもわかりませんが、計画策定について、一言話をさせて下さい。私は大山田地域に住んでおり、河川の近くをよく通ります。その時、河川の中の草や竹が繁茂しているのを見かけますが、あまり印象が良いようには思いません。環境というよりは景観の問題であるのかなと思いますが、「公園や広場などまちの緑の豊かさ」に満足している方が多い反面、この河川の景観は何とかなしたいなと思います。河川の整備は、国、県でするようですが、最近はや予算面で苦しいようです。また、過去には、地域で竹やぶを整備する事業に対して補助金が出ていたという話も聞いています。今回の計画策定の中で、そのようなことを推進できるようなことも考えてもらえたらなと思います。

〈西尾課長〉

計画策定にあたり、アンケート結果だけでなく、皆さまのご意見を伺いながら進めて行きます。よろしくお願いします。

〈寺島会長〉

より良いものができるよう、よろしくお願いします。

【4. 伊賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について】

〈寺島会長〉

事項書4 伊賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について、説明願います。

〈事務局〉

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条に基づき策定を進めてまいりました、

「伊賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しましたので、概要を報告させていただきます。

計画期間は、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度の5年間です。当計画は、2025（令和7）年度の温室効果ガスの目標値を19,801トン・CO₂としました。計画の受託者であります「一般社団法人 三重県環境保全事業団」から説明していただきます。
〈環境保全事業団〉

（地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について計画書の概要を報告する。）

「1章はじめに」としまして、1-1には、地球温暖化問題に関する世界の動向を記載してあります。1-2には国内の地球温暖化対策について書いてあります。最近では菅総理が「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指す」との発言がありました。

1-4では伊賀市のこれまでの温暖化対策の取り組みを書きました。

先ほど事務局からも報告されましたが、8ページ 2章2-2にありますとおり、今回の計画の計画期間は2021年度から2025年度までの5年間となっています。

12ページには対象とする温室効果ガスを記載しています。前計画である「伊賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」平成28年3月策定の計画で対象としていた温室効果ガスは「二酸化炭素」のみでしたが、今回の計画では二酸化炭素に加えて、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボンも対象としています。49ページに今回の計画の削減目標が書いてあります。2025年度までに温室効果ガスの排出量を2019年度比で6%削減、年平均1%の削減となっています。

今後の取り組みに当たっては、伊賀市EMSの活動を継続し、また「公用車の適正配置・更新に関する方針」に沿った活動を通して、目標達成に取り組んでいくこととしています。

補足ですが、29ページには2019年度の電気使用量の部署・施設別割合を円グラフで示しています。上下水道部、人権生活環境部、市立小・中学校、上野総合市民病院の順に多くなっています。人権生活環境部にはさくらリサイクルセンターが含まれていて、RDF製造のための電気使用量が多かったのですが、そのRDF製造は2019年に停止されました。

水道や学校、病院といった行政サービスに関わる施設での電気使用量が多くなっています。以上、補足でした。

〈寺島会長〉

報告を受けました、伊賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について、ご質問などありますか。

〈全会員〉

特に有りません。

〈寺島会長〉

電気使用量のことですが、上下水道部が多くなっているのは、何の電気使用量が多いのでしょうか。ポンプですか？

〈水瀧所長〉

ポンプだと思います。

〈寺島会長〉

分かりました。

【５．その他】

西尾課長から、環境基本計画策定に係る大まかなスケジュールの報告と、次回の審議会を６月頃に開催する予定であることが報告された。

(閉会 15:20)

議事録について、上記のとおり顛末を録し、ここに署名します。

令和３年４月２３日

議事録署名委員 伊賀市環境審議会委員 西村 美智代

議事録署名委員 伊賀市環境審議会委員 塚脇 逸子